

(11)特許出願公開番号

(43)公開日 平成9年(1997)2月25日

審査請求 未請求 請求項の数5 FD (全 4 頁)

(74)代理人 弁理士 松浦 恵治

【特許請求の範囲】

【請求項1】 容器本体内部に附属品を納めるコンパクト容器において、その附属品に磁石又は磁石吸着素材を取付け、容器蓋体の少なくとも一部に磁石又は磁石吸着素材を取付けたことを特徴とするコンパクト容器。

【請求項2】 附属品に取り付けた磁石又は磁石吸着素材が、附属品の内部に取り付けられて表面から見えない状態になっている請求項1記載のコンパクト容器。

【請求項3】 容器蓋体に取り付けた磁石又は磁石吸着素材が、鏡の裏面に隠れる位置に取り付けられている請求項1、請求項2記載のコンパクト容器。

【請求項4】 容器蓋体に取り付けた磁石又は磁石吸着素材が、容器蓋体の天板表面に取り付けられている請求項1、請求項2記載のコンパクト容器。

【請求項5】 容器蓋体の磁石又は磁石吸着素材取付位置が、膨隆部に形成されている請求項1、請求項2、請求項3、請求項4記載のコンパクト容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、コンパクト容器の附属品を容易に取り出すことができるコンパクト容器に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、コンパクト容器の内部には、中味たる化粧料のほかに、パフ・ブラシあるいはチップ等の附属品が同時収納されている。従来知られているコンパクト容器は、その内部の化粧料を納めるための化粧料収納部の周囲に、上記附属品を納めるための収納凹部が形成され、その収納凹部に附属品をはめ込み状態で収納していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】コンパクト容器は、携帯性やデザイン上の要請から、可能な限り小さくするように考えられ、究極的には附属品の収納凹部は小さく狭いものとなっていた。このため指先等が入りにくく、附属品は非常に取り出しにくい状態でコンパクト容器内に納められていた（図9及び図10参照）。

【0004】ここで附属品を取り出し易いようにするために、収納凹部を大きくするとコンパクト容器はかなり大きなものになってしまう問題があった。

【0005】さらに指の爪をかなり伸ばしている使用者もあり、このような使用者がコンパクト容器の附属品を取り出す際には、爪で化粧料を傷付けてしまうことがあった。

【0006】また使用者の中には、コンパクト容器を逆さまにして附属品を掌の中に落とすようにして取り出す人もいるが、このような使い方をすると化粧料が容器から外れたり、化粧料の粉が落ちて回りを汚す問題があった。

【0007】本発明は、上記の問題点を解消して、附属

品を取り出し易く工夫したコンパクト容器を提供することを目的とするものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、本発明にかかるコンパクト容器は、容器本体内部に附属品を納めるコンパクト容器において、その附属品に磁石又は磁石吸着素材を取付け、容器蓋体の少なくとも一部に磁石又は磁石吸着素材を取付けたことを特徴とするものである。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明を図面の実施例により具体的に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0010】コンパクト容器1は、一般的に容器本体2に容器蓋体3を開閉自在に枢着して構成されるもので、容器本体2の内部にはレフィル容器4等に詰められたアイシャドーやブラッシャー等の化粧料5が取り外し交換自在に装填されている。容器本体2と容器蓋体3とは軸6にて枢着され、対称位置付近に形成された係止部7a、7bにて容器蓋体3の閉状態を保持できるよう構成されている。

【0011】について容器本体2の内部には収納凹部8が形成され、その収納凹部8には附属品9が収納されるようになっている。

【0012】ここで附属品9としては、コンパクト容器1内の化粧料5を使用する際に便利なパフ・ブラシあるいはチップ等がある。

【0013】またコンパクト容器1の容器蓋体3の内面には、使用者の便宜のため鏡10が取り付けられることが多い。

【0014】本発明では、前記附属品9に磁石11a又は磁石吸着素材11bを取付けている。この磁石11a又は磁石吸着素材11bの取付位置は、附属品9の何れの位置であっても構わない。また磁石11aと磁石吸着素材11bの相互位置は逆であってもよく、もちろん磁石吸着素材11bを別の磁石で代用することも可能である。

【0015】について容器蓋体3には、同様に磁石11a又は磁石吸着素材11bが取り付けられている。この磁石11a又は磁石吸着素材11bも、容器蓋体3の何れの位置に取り付けられてもよく、また容器蓋体3の全面又は一部であってもよく、さらには容器蓋体3そのものを磁石11a又は磁石吸着素材11bで形成するようにしてもよい。

【0016】特に磁石11a又は磁石吸着素材11bを、図1及び図2に示すように鏡10の裏面側に取付けると、磁力吸着素材11bが露出しないので存在が目立たなくなるため好適なものとなる。

【0017】同様に、図5に示すように容器蓋体3の天板を鉄系素材等の磁石吸着素材11bで形成すれば、コ

3

コンパクト容器1の外観を考慮しながら、使い勝手のよいものが得られる。

【0018】さらに、容器蓋体3の内面の一部を膨隆部12に形成し、その膨隆部12に磁石11a又は磁石吸着素材11bを取り付けると、図4に示すように開蓋時に附属品9を一層取り出し易いものが得られる。

【0019】

【発明の効果】よって本発明のコンパクト容器によれば、化粧料中味の使用時に、コンパクト容器の容器蓋体を開くと、容器蓋体の内面側に、取り出し易い状態で附属品が吸着されて出てくるため、使用者は附属品を簡単に指で摘んで取り出すことができるようになる。

【0020】このため、コンパクト容器の附属品収納部のスペースを小さくしても、附属品を取出すのに苦労することがなくなり、極めて使い勝手のよいコンパクト容器が得られる効果がある。附属品収納部のスペースは取り出し分のスペースを考慮する必要がないので、従来よりさらに小さくすることができ、コンパクト容器もそれにつれて小さくすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のコンパクト容器の、閉蓋時の縦断端面図である。

【図2】前図の開蓋状態の縦断端面図である。

【図3】コンパクト容器の他の実施例の、閉蓋時の縦断端面図である。

4

【図4】コンパクト容器の他の実施例の、閉蓋時の縦断端面図である。

【図5】コンパクト容器の他の実施例の、閉蓋時の縦断端面図である。

【図6】附属品の正面図である。

【図7】他の実施例の附属品の正面図である。

【図8】他の実施例の附属品の正面図である。

【図9】従来のコンパクト容器の、閉蓋時の縦断端面図である。

10 【図10】前図の開蓋状態の縦断端面図である。

【符号の説明】

1 コンパクト容器

2 容器本体

3 容器蓋体

4 レフィル容器

5 化粧料

6 軸

7a、7b 係止部

8 収納凹部

9 附属品

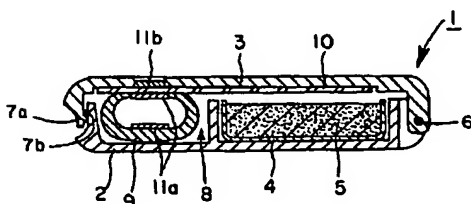
10 鏡

11a 磁石

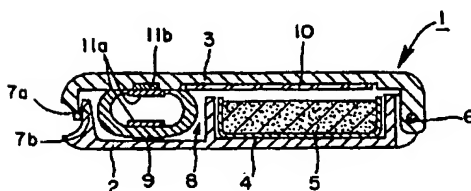
11b 磁石吸着素材

12 膨隆部

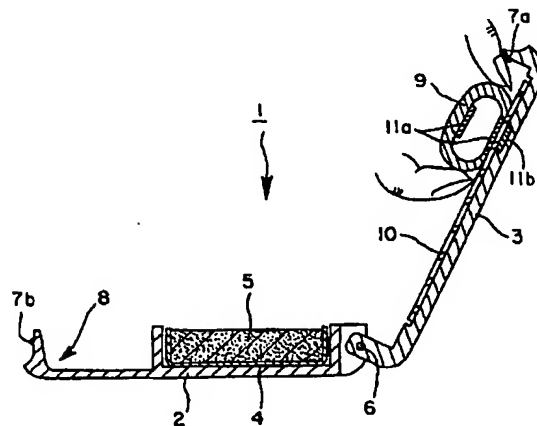
【図1】



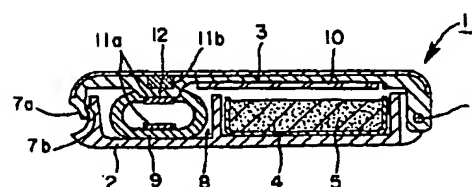
【図3】



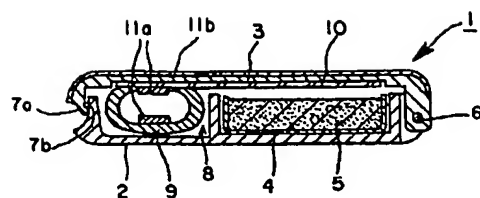
【図2】



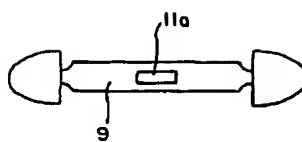
【図4】



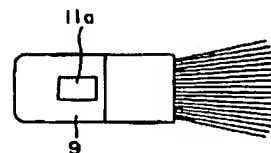
【図5】



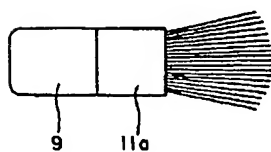
【図6】



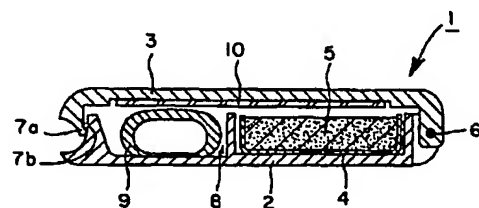
【図7】



【図8】



【図9】



【図10】

